

令和5年春の外国人叙勲

台湾人受章者（3名）に対する勲章伝達式の実施について

令和5年4月29日、日本政府は令和5年春の外国人叙勲受章者を発表しました。台湾からは3名が受章され、邱義仁氏が旭日重光章、丁澈士氏が旭日中綬章、王清霜氏が旭日双光章を受章されました。

5月9日に、大橋光夫・当協会会長が宮中での叙勲伝達式にご出席された邱義仁氏をお招きして叙勲をお祝いする会を開催いたしました。また、泉裕泰・台北事務所代表より5月31日に王清霜氏、6月28日に奥正史・高雄事務所長より丁澈士氏に対してそれぞれ勲記及び勲章が伝達されました。日本台湾交流協会としても日台関係の発展のために長年にわたり献身的なご尽力をされてこられた受章者のご貢献に衷心の敬意と謝意を表します。

邱義仁氏

勲章：旭日重光章

主要経歴：元 台湾日本関係協会会長

功労概要：日本・台湾間の友好親善及び相互理解の促進に寄与

邱義仁氏については、本号冒頭インタビュー記事をご参照ください。



邱義仁氏（左）、大橋光夫・会長（右）

丁澈士氏

勲章：旭日中綬章

主要経歴：屏東科技大學名譽教授

功労概要：日本・台湾間の学術交流及び相互理解の促進に寄与



奥正史・高雄事務所長（左）、丁澈士氏（右）

王清霜氏

勲章：旭日双光章

主要経歴：漆工芸家

功労概要：漆工芸を通じた日本・台湾間の文化交流の促進に寄与



王清霜氏（左）、泉裕泰・台北事務所代表（右）

受章者のことば 丁澈士氏

ご臨席の皆様、こんにちは。私は生涯を尽くし学術研究や交流事業に取り組んできました。本分を尽くし、やるべきことをやり通しただけであり、長きにわたり支えてくださった祖国に感謝の念を抱いております。2020年2月3日に東京で開催された「水と文化」国際シンポジウムに参加した際、ご出席された天皇皇后両陛下が水に関する研究をライフワークとされていると知り、心躍りました。その3年後に旭日中綬章を賜り、恐縮ではございますが光栄の至りに存じます。

本日の会場は屏東県政府が促進する「洪水活用、地下貯水、洪水を水資源に」の「大潮州地下水人工補注湖計画」モニタリングセンターです。私は常にここで教育、研究活動を推進してきました。歴代総統も二峰圳と大潮州人造湖を重要視し、

2012年4月19日に李登輝元総統が二峰圳を視察、蔡英文総統は2018年10月5日に大潮州人造湖を視察、その後2022年7月23日の二峰圳百周年記念式典にも出席され、台湾と日本の友情の証を示されました。

私を旭日中綬章の受賞候補として推薦して下さった日本台湾交流協会高雄事務所に感謝申し上げます。屏東県歴代及び現職県長と屏東県政府各位の「二峰圳灌漑工事」への深き理解、「大潮州地下水人工補注湖計画」の重要性及びコンセプトへの信頼と支持があったからこそ、アジア最大級の地下水人造貯水湖の完成に至りました。さらに、この成果は国連教育科学文化機関（UNESCO）の出版物や国際ジャーナルを通じ広く発表されました。「二峰圳灌漑工事」と「大潮州地下水人工補注湖計画」の推進と完成後の運用、維持・管理により、計画当初の目的は達成され、地盤沈下の緩和を果たしました。日本統治時代に鳥居信平技師が二峰圳に残した古い技術と新しい思考や建築方法・材料を継承し、屏東県新埤郷建功村の堤防付近の伏流水システム建設にも成功しました。現在、美しい伏流水を毎日水道局に提供し、皆と幸福な水資源を分かち合うことができています。

来義郷（二峰圳の所在地）歴代郷長、郷の関係者、郷民代表、頭目の子孫、及び郷民が長きにわたり二峰圳を守り続けて下さり、当地の原住民は長い間二峰圳と生活を共にしてきました。鳥居信平技師の子孫、日本の友人、インタビューをアレンジしてくださった友人達の功労も多大且つ顕著です。長期にわたる水環境運動の先駆者のご指導とご鞭撻があったからこそ、私は水との共生、持続可能な水資源について学ぶことができました。二峰圳の灌漑システムの研究に取り組み、同地下ダムの科学的基盤理論を確立して下さった屏東科技大学と同大学院で指導した学生たちにも感謝しています。台湾製糖及び同社スタッフが二峰圳の文化財を良好な状態に保ち、同地下ダムの機能を維持、さらに文化財の展示に尽力して下さったからこそ、二峰圳を後世に受け継ぐことができました。2018年、屏東高校代表チームは「屏東二峰圳伏流水灌漑システム」をテーマに参加した第15回国際地理オリンピックで銅メダルを獲得し、二峰圳を世界に広めました。また、屏東大学は二峰圳の文化財の保存を積極的に行い、UNESCO

機関誌や国際シンポジウムで論文を発表し高い評価を得ました。

屏東科技大学は二峰圳伏流水の関連商品を10種類以上開発しました。来義小・中・高校の教員らは二峰圳を学習指導要領に組み込み、同ダムの文化的継承に取り組むとともに、高校生と小学生を指導し、二峰圳ガイドスタッフの育成を行いました。2022年7月23日の二峰圳通水百周年記念イベントでは、学生たちは素晴らしいガイドスタッフとして海外からの訪問客に鳥居技師の功績と二峰圳を紹介しました。今年、来義郷役場は屏東大学と連携し、中央政府からの補助金を得て、二峰圳の地方創生計画を積極的に推進しています。八田與一基金会は長きにわたり二人の日本人土木技師（八田與一技師及び鳥居信平技師）の台湾での功績を広く発信してきました。中正ロータリクラブ及びその姉妹クラブである日本静岡県の袋井ロータリクラブも二峰圳の継承を推進し交流事業を積極的に行い、日台の友情を深めました。

前述のとおり、「二峰圳」及び「大潮州地下水人工補注湖」のために力を尽くしてきた本式典にご臨席・ご参列できなかった多くの方々の支持、激励、寄り添い、広報、理解があるからこそ、私はここまで歩んでくることができました。この受賞の栄光を皆様に捧げるとともに、私利私欲を求めずここまで一緒に下さった皆様のことを深く心に刻みたいと思います。

最後に、私を育ててくれた両親と家族に感謝の意を表したいと思います。特に日本の教育を受けた両親が、日本統治時代に教育や生活等の品格を学んだおかげで、私は着実に勉強し、物事の真実を求める事の大切さを両親から教わりました。この度の受賞の栄光を天国にいる両親とも分かち合いたいと思います。

ご臨席の皆様のご健勝とご多幸をお祈りいたしまして、私の答辞とさせていただきます。

受章者のことば 王清霜氏

人生には成し遂げなければならないことが多くあります。それらの中で、絶えず継続することができることは、心によって導き出されます。一つのことを選択し、それに人生を捧げ、一生懸命努力することは、人生で最も美しい光景です。私にとって、人生の豊かさを映し出すことで生まれる



美しい光景は、漆とそこから派生する工芸、芸術、産業です。

私は1922年、日本統治時代の昭和7年に台中州豊原郡神岡庄に生まれました。16歳で台中工芸専修学校漆工科に入学し、そこで漆に出会いました。その後、「山中工芸品製作所」と「台中工芸伝習所」を創立した山中公先生の推薦で、東京と大阪に行き、河面冬三、羽野禎三、黒岩淡哉などに師事し、工芸、芸術、造形、デザインなどの分野を学びました。広く深く学ばなければ、このように工芸の道を長く歩むことができないことは明らかです。昭和の日本に蓄積された芸術・工芸の知識は、私の心の中の漆に対する確信と情熱を刺激し、一生続くものになりました。その後、スクリーン印刷技術を台湾に導入したことにより、多くの人々の生活は安定しましたが、これらはすべて日本からのとても多くの支援を受けたものであり、非常に感謝しています。

漆は自然が人に与えた宝です。とても自然で安全性の高いもので、日常生活での利用と芸術面において、それぞれ漆器と漆芸として表現されています。漆を通して、控えめな落ち着いた様子を映し出すことができ、また高貴さやおおらかさを強調することもできます。漆芸の魅力は、材料そのものと、工程の特性にあります。台湾の天候は独特であり、漆芸に最適な場所です。かつては多くの場所で漆が栽培され、職人の養成もされていました。しかし、新たな技術が登場したことで、人々の漆に対する依存は徐々に失われました。漆芸市場も縮小し、日本統治時代から台湾で始まった漆芸もまた変わらなければなりません。2011年、私は台湾で初の人間国宝の栄誉を得ました。政府の伝統工芸、文化財の保護政策のもと、学んだことを実践し、伝承することにより、漆芸

を台湾で広げ、漆芸に関わる人はだんだんと増えました。漆芸家の知識への渴望は、そのまま日本との漆芸交流の促進に繋がり、日本との関係はより深いものになりました。漆芸の世界では、日台双方の努力により、美しい光景が映し出されています。

振り返ってみると、私は16歳から今まで86年間、人生の5分の4以上の歳月を漆芸に捧げてきました。確かに、安定したなだらかな道ではありませんでしたが、漆芸は私の情熱に火をつけました。漆芸にきちんと向き合っていけば、私の人生に微笑み返してくれると思ひ、この思いこそが、私が漆芸創作と普及を続ける支えとなっています。これまでの私に対する多くの方々からの支援に感謝します。今日まで支えてくれた家族、特に私の人生を支え、漆芸創作の世界に長年静かに打ち込ませてくれた妻には、さらに感謝しています。

今回、日本政府から旭日双光章を授与されたことは、非常に光栄なことで感謝いたします。このことが、日台間の漆芸交流のさらなる発展の契機となり、日台が過去を踏まえ努力することで、漆芸の新たな道を開いていくことを期待します。

